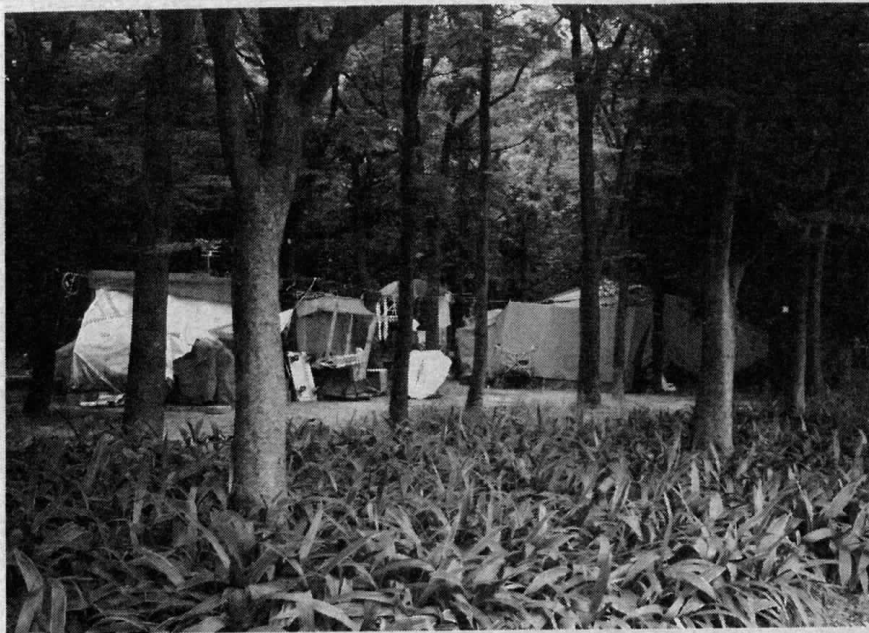


都市の風景
おおさか



出口のみえない不況のなか、職を失い、野宿を余儀なくされて公園の青いビニールシートのなかや駅、地下街の通路で寝起きする野宿生活者が急増している。大阪市内の公園内でも樹木の中に青いビニールシートがいくつも並ぶ。野宿生活者への対策を急がねばならない。自治体や支援団体から国の早急な対応を求める声が強まっている。決して排除の論理に立たない、就労の確保や法の整備など恒久的な自立支援の対策が必要だ。(写真は大阪城公園内)

(文・写真/大阪市従・中村浩実)

私の相談に、
私の気持ちでこたえてくれる。

ふれあバンク
R 3ろうきん

じっくり話して、しっかりお選びください。

Rokin Loan

とにかく低利、ますます有利。
自動車ローン

返しやすいで、有利さ実感。
住宅ローン

不意の出費に、頼れるカード。
マイプラン

進学準備は、早めの相談から。
教育ローン

インターネットでも(ろうきん)の情報がご覧いただけます。

アドレス <http://all.rokin.or.jp/>

大阪住宅生協のリフォーム

新築・増改築およびリフォーム
見積金額から4%割引

キッチンをもっと使いやすくしませんか?



●Mさん宅
「隣室の和室と台所の間の壁を取り、和室をリビング・ダイニングに。収納の少ないI型からL型キッチンにして、娘と料理を楽しんでいます。シンク右横扉の中は天袋まで食器棚に」

経験豊かな専任のプランナーが、キッチンの悩みをじっくり伺って解決。限りある空間を有効利用するプランで、台所はいつもすっきり快適!

工事範囲 大阪府内、奈良県内、滋賀県内全域および京都府、兵庫県、和歌山県、三重県の一部

●新築●建て替え●リフォーム●増改築

0120
FreeDial

0120-6-11502

イイコージ

大阪住宅生協

(大阪労働者住宅生活協同組合)

サービス事業部

大阪市中央区北浜東 1-12 千歳第一ビル

【巻頭言】

「ホームレス問題」の核心 玉井金五 6

特集 ● 都市とホームレス政策

現代都市と「ホームレス問題」 岩田正美 8

「野宿」の取材ノートから 原 昌平 16

ホームレスと雇用政策 福原宏幸 25

地域に根ざし、地域でささえてこそ、居住は安定する ありむら潜 34

「野宿者問題」 中山 徹 42

— ホームレスと医療・福祉の課題 —

フランスの「反排除法」にみる「ホームレス」対策 都留民子 49

野宿生活者問題とNPO 松繁逸夫 50

— 釜ヶ崎支援機構のめざすもの —

【図書紹介】

財団法人家計経済研究所編

高野 博孝

『地域づくりの文化創造力』(株)JDC 庄谷邦幸 76

赤石千衣子 3

名所・田跡ぶらり散歩

大阪いいとこ・あんなとこ・こんなとこ

〈34〉 灘波津に建つ「三津寺」と「御津八幡宮」

畑中 稔 72

連載 ● 介護保険法を私はこう読む ④

利用者に費用を給付する仕組み 大谷 強 74

シリーズ ● アジアの住宅政策 6

台湾における住宅事情 陳 立夫 88

財政危機下の一九九九年度予算編成 長沼進一 96

— 大阪市予算の分析と評価 —

居住環境と高齢者福祉 永峰幸三郎 106

— 阿倍野区高齢者生活実態調査から —

地方分権社会における大都市 (その1) 吉村 悟 114

— 都市内分権と行政区 —



「ホームレス問題」

る。

一方、こうした雇用保険に必ずしもカバーされない、いわゆる派遣とかパートといったフロー型雇用であれば、よりリスクは大きくなる。そして、現実的にはかつての終身雇用、長期雇用で代表されたストック型雇用が揺らぎはじめ、ジワジワとフロー型雇用が浸透してきているのだ。また、こうした雇用者以外の人びと、つまり自営業的な仕事に従事する者にも不況の波は及び、彼らの生活破綻からホームレスとしての生活がまちうけられているのも今日の姿そのものなのである。

このようにみえてくると、現代のホームレス問題はたんに一過性のものではなく、むしろ日本社会の構造から生じてきているように思われる。つまり、戦後わが国がつくり上げてきたとされる社会生活のためのセーフティネットが綻びかけているのではないかと、ということである。たとえば、日雇労働者のための社会保険といえは健康保険と雇用保険だけであり、彼らのために独自の年金保険はつくられてこなかった。しかし、今日もつとも深刻な課題のひとつは高齢日雇労働者のための老後保障がまったく確立していないということである。

また一般の雇用者や自営業者にしても、戦後構築された社会保障の網の目からこぼれ落ちる者が生じている。しかも、以前であれば家族、親族、地域といったレベルでの相互扶助的な機能がそれなりに作用し、見方によってはそれらがインフォーマルなセーフティネットとしての役割を果たしていたが、現在ではそうした領域の中身が大きく変質しつつある。つまり、これまで期待されてきた機能を十分に果たさなくなりつつあるのだ。

いずれにしても、ホームレス問題はまもなく二一世紀を迎えるわが国に対して、戦後の社会経済システムの行き詰まりの原因に関する重大な課題提起を行っている。この問題を多角的に分析し、その本質を徹底的に究明することこそ、今後の新しいセーフティネット構想に不可欠であろう。



玉井金五

大阪市立大学教授
本会理事

の核心

近年、「ホームレス問題」が激化しつつある。その背景には、不況の深刻化をはじめとして種々の事情が存在する。しかし、これほどのスケールでホームレスが目立つようになったのは、極めて稀な出来事であるといえよう。だとすれば、その現実の背後に潜む根本的な原因を徹底的に洗いださなければなるまい。

原因のひとつは、前々から指摘されてきている日雇労働者の高齢化である。われわれが数年前に調査した結果からも、五〇歳を過ぎた頃から彼らの仕事が激減していることがはっきりした。建設・土木という、かなりの肉体的負担を強いられる作業に高齢者は排除されがちであり、そのことが実際に激しく生起しつつあるのだ。もっとも、日雇労働者には彼らの雇用保険があり、受給要件を満たせば給付金を手にすることができるものの、いまやその受給のための最低要件さえ満たせなくなっている。

仕事からアブレ、かつ右の給付金も受給できず、わずかな所持金を使い果たしてしまうと、行き着くところホームレスとしての生活である。こうしたとき誰しもなぜ福祉的な施策でカバーできないのか、という疑問を抱くであろう。しかし、日雇労働者の「労働」と「福祉」の間の距離はみかけ以上に大きなものがある。差し迫ったケースであればともかく、一般には本人に労働能力が認められるかぎり、働くことが最優先される。いわば、「労働」と「福祉」の間で微妙に働く作用は高齢日雇労働者に桎梏となる。

原因のもうひとつは、近年のリストラ等に見られるように不況の影響をまともにうけて、ホームレス化するケースである。リストラは、個人のみならず家族まで巻き込んだ形で生活を浸食する。この場合でもわが国では社会保障のひとつとして雇用保険があるから、それで対処できるのではないかと、思うであろう。もちろん、被保険者で受給資格を満たしていればそれは可能である。しかし、現行制度は加入期間、年齢等によって給付日数が異なるため、失業期間が長期化すれば人によっては資格を喪失してしまうことになる。単身で手持ちのストックが涸渇すれば、ホームレスとしての生活を強いられる者もで